

種の概要

北海道南部から本州のほぼ全域と四国東部で分布が知られる。本種とされるものには形態変異があり、既知資料では複数種が混在しているものと考えられる。殻長70mm程度の長卵形をし、殻頂から復縁にかけての膨らみは近似種よりも相対的に大きい。殻頂は前縁のほぼ中央に位置し、前縁と後背縁は水平な形態が多いようである。水路やため池に生息する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			△	○	○		○

県内分布

加古川市、姫路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。2013年に加古川水系水路の狭い範囲で成貝が7個体確認された。過去においては同水系の近隣水路の調査は頻繁に行われていたが、確認していない。突然に見つかったことで国内外来種の可能性も否定できないが、外来という根拠もないので在来種として扱った。もう一産地の揖保川水系では、林田川流入水路で1個体のみが確認されているにすぎない。

保護上の留意点

既知産地の水路は、U字溝による護岸が施されているものの、側近の本流からの取水によりイシガイ(貝類Cランク)やトンガリササノハガイ(貝類Aランク)が生息し、季節的にホストとなる魚類が入ってくる。しかし、泥上げが毎年のように行われており、その度に二枚貝類が陸上に上げられ死亡していることから、泥上げ時に本種を含めたイシガイ科二枚貝を選別し、水路へ戻すなどの配慮が必要である。



写真提供：増田修



写真提供：増田修



【執筆者】 増田修